

## 日常のリハビリテーションサービスにおける タキザワ式と創動運動の有効性に関する研究

和田里佳<sup>1</sup> 滝沢茂男<sup>2</sup>

<sup>1</sup>医療法人社団立花整形外科 通所リハビリテーション事業所

<sup>2</sup>バイオフィリア研究所

### 要旨

タキザワ式リハビリテーション（リハビリ）と創動運動の導入経緯、実施の状況、実施による利用者の身体状況、研究内容と、バイオフィリア リハビリテーション誌、同学会大会における報告を、ポーランド科学アカデミーと日本学術振興会の科学協定に基づく審査により、採択され開催された2国間セミナーにおいて発表した。その内容をまとめたので報告する。

### 内容

私は、国立療養所箱根病院附属養成校を1984年卒業以来、理学療法士をしている。私が国立療養所箱根病院のリハビリ学校に在学中の実技研修で、滝沢恭子氏は私の指導教員であった。彼女は日本では女性のPTとして学校を出ずにPTになった数少ないメンバーのうちの一人で、確か500番目ぐらいの古株のPTであった。

彼女は大規模な急性期病院に務め、たくさんのお客さんのリハビリをおこなってきた。そのため、実施者の手が足りないという点を解決するために色々な器具を考えた。私たちが研究の対象にしている下肢の運動器は、「彼女が忙しくて治療できないのでお客さんが自分でできるようなものを作ろう」ということで、ご主人にミシンの足ふみから、下肢の運動器を作ってもらったと聞いた。

彼女が勤務していた藤沢市民病院でいろいろ学んだが、器具を用いてそれこそ次から次へと来るお客さんをさばっていくその姿には大変驚いた。1年間で15000人以上のお客さんに一人のPTでリハビリにあたっていた。私は現在でも、研究を通じて、そうしたことを可能にした創動運動器と名付けられたその器具を利用している。

卒業以来 お客さん・利用者さんにリハビリを実施してきたが、結婚を機会に、川崎の病院から神戸に移った。在宅のリハビリを受け持つことになり、それでふと思いついたのが、彼女が利用していた下肢の運動器である。そこで電話をかけその運動器を提供してもらえないかという相談をした。すると提供するという返事があり、1万円もしない器具なので送って来られるのだろうと思っていたが、なんと息子さんが届けに行きた。神戸までの交通費を考えると何かほかに目的があったようである。それが、私が、研究所の滝沢教授と会った最初である。

その後彼はシステムとして世に出すという決意でこの研究に取り組み、今でもそうしている。私と次に会う機会で、「研究に協力してもらえないだろうか」という相談を受けた。

通所リハビリセンターの所長として、勤務するにあたり、器具の準備をするために、兵庫県リハビリセンターで会ったときに、その話をしたことは、今でも時々話に出る。

彼は、この研究に自身の人生をかけているようである。母親のPTが1万通りのやり方でリハビリを行っているのを、他の人にはできないというのを、6年の歳月をかけ、自身の天職としていた議員としての政治活動をあきらめることで、情報開示を受け、「寝たきり老人を歩かせる」を上梓された。この間のことを、「母はリンゴの木で、私はリンゴの落下を見て万有引力を見出したニュートンの立場です」といって笑っている。

これが、私がこの研究に関わった最初であった。その後、新しい入所利用者さんが来る度に、通所センターであるのに、リハ医学の研究に協力しているので、利用者の皆さんの実際に行っている状況と介護保険の評価の状態などを私の研究で使わせてもらう了解を得ている。特にビデオ作製などの実施モデル研究については15年前の書類を今でも保存している。

以来、私は研究発表のために、他の人が皆大学教授ばかりの国際学会に頻回に参加することになった。自費で行ったり又は公的研究費により参加したりして今日まで続けている。そうした研究の積み重ねについて、今回採択され実施した2国間セミナーで講演した研究内容は以下の通りである。講演では、参考資料<sup>1) -13)</sup>に示した内容を説明する。

タキザワ式による在宅リハビリテーションの実施（2002年）、

訪問在宅リハビリテーションサービスとしての創動運動の利用（2002年）

消費者行動の視点を取り入れたADL評価表の試作・報告（2004年）

長期調査により機能改善が実現した外来2名の症例報告（「障害者高齢者のための地域バイオフィリアリハビリテーションネットワークの構築」と名付けられたこの研究は、2007年に日本の福祉医療機構の助成を受けました）

バイオフィリア リハビリテーションの大規模研究の実施（2009）

創動運動の施設におけるfNIRSによる脳活動の評価-外来患者のリハビリサービスの実施（2011）

タキザワ式の外来リハビリ実践と創動運動の効果検討（2012）（2015）（2016）（2017）

当施設での外来リハビリの実施と効果（2014年）

2国間セミナーで、公費でポーランドに行ける予定であったが、COVID-19でZoomの会議になってしまった。しかしながら、これまでの研究経過、研究報告をまとめて、世界の人々にお知らせするというこの機会を得られたことは私にとって大変な名誉であった。

日本語で行う報告会の内容を皆さんがお聞きになって、そして、ビデオセッションで見て、リハビリの状況から誰でも簡単に採用ができる手法だと、理解していただけたと考えている。

この研究に関する講演が皆様のお役に立てることを心から願っている。

#### 参考資料

- 1) Rika Wada, Shigeo Takizawa, Implementation of Rehabilitation Service in the Outpatient Facility, BIOPHILIA, 2017 Volume 2017 Issue 3 90, doi.org/10.14813/ibra.2017.90
- 2) Rika Wada, Yoshiko Morita, Shigeo, (Taki) TAKIZAWA, The Report of the networking study for advancing home rehabilitation by KAKEN, BIOPHILIA, 2011 Volume 1 Issue 1 32, doi.org/10.14813/ibra.1.32
- 3) Rika Wada, Shigeo Takizawa, Practice of Outpatient Rehabilitation of the Takizawa Method and Motivative Exercise, BIOPHILIA, 2016 Volume 2016 Issue 2 23, doi.org/10.14813/ibra.2016.23
- 4) Rika Wada, Toshihiro Tachibana, Yoshiyasu Takefuji, Shigeo Takizawa, Brain Activity Measurement by Functional Near-Infrared Spectroscopy Between Motivate Exercise and Passive ROM Exercise to the Outpatients of Rehabilitation Day Care Services, BIOPHILIA, 2013 Volume 3 Issue 1 18, doi.org/10.14813/ibra.3.18
- 5) Rika Wada, Toshihiro Tachibana, Yoshiyasu Takefuji, Shigeo TAKIZAWA, EVALUATION OF THE BRAIN ACTIVITY BY fNIRS AT THE FACILITY OF TAKIZAWA METHOD ENFORCING, BIOPHILIA, 2011 Volume 1 Issue 4 4\_7, doi.org/10.14813/ibra.1.4\_7
- 6) 和田 里佳, 創動運動によるリハビリテーション医療を併用した通所リハビリ事業所でのプログラムの実際の紹介, 第22回バイオフィリア リハビリテーション学会研究大会予稿集, 2018/11/10-11, doi.org/10.14911/biophilia.2018.0\_10 (JP)
- 7) 和田 里佳, 創動運動によるリハビリテーション医療確立に向けて, 介護保険の現場で働く理学療法士からの立場から, 第21回バイオフィリア リハビリテーション学会研究大会予稿集, 2017/08/26-27, doi.org/10.14911/biophilia.2017.0\_5
- 8) 和田 里佳, 次年度大会会長挨拶, 創動運動によるリハビリテーション医療確立に向けて, 第20回バイオフィリア リハビリテーション学会研究大会予稿集, 2016/10/29, doi.org/10.14911/biophilia.2016.0\_4

- 9) 和田 里佳, 立花 敏弘, 滝沢 茂男, 武藤 佳恭, 創動運動が身体に与える影響評価 3, 20 回バイオフィリア リハビリテーション学会研究大会予稿集, 2016/10/29  
doi.org/10.14911/biophilia.2016.0\_10
- 10) 和田 里佳, 立花 敏弘, 滝沢 茂男, 創動運動が身体に与える影響評価-その 2, 第 19 回バイオフィリア リハビリテーション学会研究大会予稿集, 2015/10/24-25,  
doi.org/10.14911/biophilia.2015.0\_33
- 11) 和田 里佳, 立花 敏弘, 滝沢 茂男, 牛澤 賢二, 当施設における通所リハビリテーション実施と維持効果について, 第 18 回バイオフィリア リハビリテーション学会研究大会予稿集, 2014/08/23, doi.org/10.14911/biophilia.2014.0\_9
- 12) 和田 里佳, 立花 敏弘, 滝沢 茂男, 創動運動が身体に与える影響評価, 第 16 回バイオフィリア リハビリテーション学会研究大会予稿集, 2011,  
doi.org/10.14911/biophilia.2012.0.16.0
- 13) 和田 里佳, タキザワ式リハビリテーション:平成 17 年度 WAM 助成地域リハ・ネット報告書(復刻), 医学研究会バイオフィリア リハビリテーション学会研究部会予稿集, 2013/03/01, 142-147, doi.org/10.14911/biophilia.2013.2.0\_142